

Ⅱ 事業の概要

法人

(理事会機能の充実)

近年、少子化や経済情勢等の影響を受け、私立学校を取り巻く環境は厳しさを増している。特に大学では2018年問題も間近になり、一層の厳しさが見込まれる。共愛学園ではこのような状況下にあつて、様々な課題に対して主体的、機動的に対応できるよう次の事業を行った。

1 ガバナンスについて

本学園のガバナンスの在り方を探求するための一環として、役員、評議員及び事務局員を対象に次の研修会を実施した。

- ・ 2015年7月10日(金)に研修会を開催し、認定こども園の保育概要等について(白石園長)、小学校の教育内容等について(大川学園長)、学校法人会計基準の改正について(外丸総務課係長)、それぞれ説明を受け、その後に質疑応答が行われた。
- ・ 2016年2月12日(金)に研修会を開催し、KYOAI GLOBAL PROJECT～文部科学省4大事業の同時採択・推進～について(大森副学長)、私大等補助金について(是澤総務課長)、それぞれ説明を受け、その後質疑応答が行われた。

2 実効性のある中期経営計画の策定

学童クラブから大学まで6部門の財務を中心とした、5ヶ年(2016～2020年度)中期経営計画書を作成して、2015年11月27日開催の本理事会及び2016年1月29日開催の評議員会へ諮り、審議・承認された。

なお、財務計画の他、より教育・保育計画を含んだ総合計画へと内容を充実させ、一部内容についてはPDCAサイクルに基づく検証を行い、その結果を理事会及び評議員会へ報告した。

3 部門ごとの経営会議(委員会)の充実

「中学・高校財政問題検討委員会」、「幼稚園企画運営委員会」、「保育園企画運営委員会」、「学童クラブ企画運営委員会」をそれぞれ月1回開催し機能させている。いずれの委員会も理事長が議長となり、それぞれの部門の役職者と本部事務局職員が委員となって諸課題に対応し、生徒・園児の確保、財政の安定及び施設設備の充実などに一定の成果を上げている。

なお、大学の場合には、理事長は事務局長や各課長とともに教授会、企画運営会議、6者連絡会などへ参加している。

(学園小史の編纂)

共愛学園小史編纂委員会規程に基づく執筆委員会が、2015年度中に準備会を含めて3回開催され、執筆について次の概要方針が確認された。

- ・ 完成は2018年9月頃を予定する。
- ・ 全体で150ページ程度のものとする。

- ・学園の歩みの部分は、部門ごとに写真（人物・建物）と解説文で構成し、30 ページ程度とする。
- ・サイズは既刊の「共愛学園百年のあゆみ」と同サイズ（18.5cm×26.3cm）とする。
- ・執筆メンバーは学内関係者とし外部へは依頼しない。
- ・学園として残しておきたい資料は、デジタル化して資料の一覧を作成するなどで保管をし、後々に引き継ぐ。
- ・卒業生や学園に関係する歴史を持つ人々（例：松本たま）について取り上げる。
- ・各部門へ年表の提出を求め、それらを一覧にまとめた学園年表を作成する。

（小学校開校について）

2014年9月に提出した共愛学園小学校設置の事業計画が、同年12月の群馬県私学審議会において承認された後、2015年7月に設置認可の本申請を行い、同審議会による現地調査を2016年3月2日に受けて、群馬県知事より3月18日付け認可された。

校舎建築関係は一部鉄骨工事の遅延もあったが、工期日程のとおり2016年2月末にほぼ完成させることができた。また、備品や図書関係も3月中旬には計画とおりの搬入を済ませることができて、施設・設備関係は特に問題もなく、計画のとおり準備を終えることができた。

開校に備えて、主に申請事務を担当する第一準備室のほかに第二準備室を設け、大川校長予定者以下6名の教員予定者が1年がかりで教学準備に当たった。また、実務者による準備室会議、学園各部門の代表者による準備委員会も継続して開催し、様々な懸案事項等について審議を重ねた。

以上の経緯を経て、2016年3月26日に250名余りの参列者のもと開校・献堂式、4月8日に入学式を挙行することができた。現在、第一期生52名が元気よく学んでいる。

（中学・高校第二体育館の建設）

理事会において、基本設計が確認された後、秋には実施設計が承認され建築業者の選定に入った。地元5社より見積もりを求め審議したところ、2015年12月の理事会において、最も廉価であった立見建設に発注することに決定した。2016年3月に定礎式を挙行することができ、2016年末の竣工を目途に工事は順調に進んでいる。

1階に駐輪場と部室を設け、2階にメインのアリーナーと会議室などを配置した。また、2階部分で既存の体育館と渡り廊下でつなぎ、外に出ることなく往来ができる構造になっている。

（大学礼拝堂・事務棟の建設）

大学は1999年に開学して18年目を迎えることができたが、この間コースの変遷はあったものの、学部・学科については、開学以来変わることなく今日に至っている。一方では、地方創生事業などとも関連して、地域の産業育成や発展に貢献できる人材育成など社会的な要請もある。これらの背景から、学部・学科の増設、またはコースの見直しなどについて検討する必要がある。

礼拝堂・事務棟の建設であっても、これらの将来構想と微妙に関連してくるので、ある程度の方角性が決まってから着手することにした。目安としては2017年度中には着工したい。

（学園創立130周年記念事業募金）

募金については、「130周年記念事業募金委員会」を2015年度中に4回開催し、事業及び各外

郭団体等からの募金の進捗状況の確認等を行った。

各団体等の分担目標額・実績（2016年3月31日現在）は次のとおり。

(単位：千円)

	団体区分		目標額	実績額
1	学園同窓会	中高同窓会	30,000	27,104
2	中高ベタニア会	保護者会	40,000	22,887
3	賛助会		20,000	27,979
4	大学グレープバイン	大学同窓会	30,000	5,491
5	大学シオン会	大学保護者会	30,000	10,220
6	幼稚園オリブの会	幼稚園保護者会	2,000	2,103
7	保育園ナザレ会	保育園保護者会	2,000	619
8	一般（教会、保育園保護者、 学童クラブ保護者、一般）		3,000	5,174
9	役員・教職員		15,000	11,865
10	学園バザーより		15,000	6,500
11	小学校保護者会		15,000	0
	計		200,000	119,912

(小学校設置収支)

小学校設置に係る収支は次表のとおりであるが、特に建築資材の高騰や職人不足によって建築費が暴騰し、当初計画の予算額より大幅な超過となった。中学・高校と大学の繰越金を充てることにより、特に借入れを起すことなく開校できた。

小学校設置収入・支出表

収入の部

(単位：千円)

区 分	額	記 事
特別寄附金	299,047	
施設拡充費	78,292	
130周年募金より	87,379	
バザー収益より	6,500	
賛助会より	126,643	
その他	233	互助会より
分担金	691,543	
大学より	272,000	
高校より	272,000	
中学より	140,000	
本部分担金	7,543	
繰越金充当	937,692	中学・高校と大学の繰越金を充当
合 計	1,928,282	

支出の部

(単位：千円)

区 分	額	記 事
施設関係支出	1,830,208	
土 地	205,750	造成工事含む
建 物	1,100,928	設計管理料含む
建物附属設備	404,390	
構 築 物	116,281	
建設仮勘定	2,858	
設備関係支出	42,033	
教育用機器備品	29,091	
管理用機器備品	11,653	
図 書	101	
ソフトウェア	1,188	
経費支出	56,040	
合 計	1,928,282	

大 学

(入学の状況)

特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開などにより、定員以上の学生を確保することができた。

2015年度 コース別入学概況 (入学定員 225名、編入学定員 5名)

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英 語	国 際	情報経営	人間文化		
応募者	152 (1) 名	135(0) 名	99 (1)名	96 (0) 名	95(0) 名	577(2) 名
合格者	109 (1)	102(0)	70 (1)	71 (0)	67(0)	419(2)
入学者	60 (1)	65(0)	63 (1)	44 (0)	25(0)	257(2)

() 内数値は編入学の内数

(専任教員人事)

2014年度末に特任教授2名(キリスト教関連科目、教職関連科目)が退任したが、後任は補充しなかったため、専任教員は2名減の32名体制となった。

(専任職員人事)

2015年度に専任職員2名を新規採用したので22名体制となった。

(奨学金制度の見直し)

資格特待生を含む新しい奨学金制度へ 2012 年度から移行した。その新制度の基本的な概要は、資格特待生の適用を 1 年次のみ限定し、資格特待の学年進行継続廃止に伴って生じる原資を基に、新たに「ともさくら奨学金」、「ワークスタディ奨学金」、「コース奨学金」などの奨学金制度を設けたことにある。

移行して 4 年目の 2015 年度からは、全学年に新制度の資格特待制度が適用されたが、次表のとおり資格特待生への奨学金支給額は縮小傾向にある。

年度別の資格特待生と奨学金（参考）

（単位：千円）

年 度	資格特待生	他の奨学金	計	記 事
2011 年度決算	173, 250	17, 040	190, 290	
2012 年度決算	160, 850	25, 810	186, 660	新制度へ移行
2013 年度決算	146, 940	30, 920	177, 870	
2014 年度決算	97, 440	48, 080	145, 520	
2015 年度決算	64, 762	49, 934	114, 696	
2016 年度予算	67, 312	64, 935	132, 247	決算では減額の見通し

なお、資格特待の学年進行に伴って生じる原資を基に、新設された奨学金制度は次のとおり。

- a. 共愛学園ともさくら奨学金：経済的困難な学生を支援
- b. 学業奨励奨学金：各コースの成績最上位者に対する奨学金（原則 20 名）
- c. コース学業奨学金：各コースの成績優秀者に対する奨学金
- d. ワークスタディ奨学金：学内勤労に対する奨学金
- e. インターンシップ奨学金：学内で専門的業務に従事することで得られる奨学金
- f. プロジェクト支援奨学金：優秀なプロジェクトに対する奨学金
- g. その他これまでの奨学金の継続と内容の一部変更

（グローバル人材育成推進事業（以下「GGJ」）の推進）

2015 年度は GGJ 事業 4 年目（5 か年事業）となり、2013 年度に開設した Global Career Training 副専攻（GCT 副専攻）、各種海外研修プログラムを充実させ、滞りなく運営することに主眼を置いた。本事業の目的は地域社会を牽引する「グローバルリーダー」育成であり、求められる主な数値目標は海外留学派遣人数、学生の語学力である。2015 年度の海外留学派遣人数は 160 人であり、2012 年度の事業開始時と比べ、約 1.7 倍（2012 年度 95 人）となった。語学力伸長に関しては、GCT 副専攻での英語による授業、ネットを利用した海外講師との語学授業等により TOEIC スコアを伸長させることができた。

（地（知）の拠点整備事業（以下「COC」）の推進）

2015 年度は COC 事業 2 年目（5 か年事業）となり、前年度の準備期間を経ての本格始動の年となった。本事業の目的は、全学的な地域志向改革を推進し、前橋市と一体となり地域課題として設定した「地域（産業）人材の育成」と「地域ブランド向上」に取り組むことにある。2015 年度は前橋市と一体的に設置した「COC 推進本部」を中心に事業を推進し、「長期インターンシップ」、

「Regional Project Work（地域課題解決プロジェクト）」等の新科目を開講した。また、「地域ブランド向上」への取組として、地域志向研究支援制度を設置・公募し、5件の採択を得るにいたった。なお、2016年度よりCOC事業は後述するCOC+事業に吸収されることとなった。

（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「COC+」）の推進）

2015年9月、本学は文部科学省が推進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「COC+」）」に採択された。このCOC+事業は都道府県レベルの自治体、域内の大学・企業と連携し、地方における若者定着を促進するものであり、全国で42大学が採択されている。うち私立大学は2校のみとなっている。

初年度は本事業推進の準備期間として、自治体（群馬県、前橋市、高崎市、伊勢崎市、富岡市）と「雇用創出・若者定着に係る連携協定」を結び、協働機関コンソーシアム「C3PG」を発足させることができた。同時に学内の人材育成カリキュラムの整備を進め、次年度開講に向けた地域人材育成に主眼とするRCT副専攻の制度設計を行った。

（大学教育再生加速プログラム（以下「AP」）の推進）

2015年度はAP事業2年目（5か年事業）であり、初年度に引き続き各種準備を中心に取り組んだ。事業目標は、「学修の質保証のための基盤整備」とそれを活用した「学修質保証システムを構築すること」である。今年度の基盤整備として、学修成果を記録・保存できるポートフォリオシステムの稼働、シラバス改修、ライティングピアチューター制度の運用を実施した。一方、システム構築として、コモンルーブリックの策定を行った。

（地域貢献）

2008年度に設立された地域共生研究センターを核として、地域との共生（連携）を推進するため幅広い活動を行っている。

2015年度中の同センターの活動実績は次のとおり。

【主催・共催事業】

- ・「きょうあい子育てひろば」を企画立案し、3シリーズの他、託児養成講座を実施。
- ・「しぶかわ子育てひろば」（渋川市保健福祉部こども課共催）ファースト・サード 各1回
- ・群馬現代史研究会
- ・生涯学習講座
 - 「歴史のなかの東」（前橋市東公民館）
 - 「パソコンはじめて講座」（前橋市永明、城南公民館共催）
- ・放課後寺子屋（NPO教育支援協会共催）
- ・テラコッタ教室 講師 本多 正直（本学教授）
- ・「発達心理学」「人間を考える」公開授業
- ・「ジェンダー論」公開授業

【地域連携事業】

○ 委員等派遣

群馬県立大学公立大学法人化検討委員会委員、群馬県男女共同参画推進委員会委員など多

数自治体等の委員として教職員を派遣した。

○ 講師等派遣

群馬県子育て支援ネットワーク事業、男女共同参画基本計画策定研究会などに多数教職員を派遣した。

○ 共同研究等

本学共同研究費により「群馬現代史研究会」を年2回開催している。

○ 共催事業

自治体、公民館、社会教育施設、町内会、地域団体等々との共催事業を展開し、地域との連携を深めている。

【ボランティア派遣事業】

前橋市内小中学校、伊勢崎市内小中学校、群馬県青少年会館などへ学生ボランティア等を派遣している。

(交流センターの開設)

2014年度に取得した日建学院の跡地に交換留学生用の交流センターを設けた。二つある大小のうち小さな建物を改築したもので、12名収容可能な居室を設けている。改築費用は設備を含めて4,650万円ほど要したが、私大活性化施設整備補助金と教育研究施設整備補助金を併給(2,275万円)することで、学園負担は半額程度(2,375万円)に済ませることができた。

2016年度からは、12名の収容定員に対し、6名の交換留学生、3名の日本人学生(国際寮管理人)が入居し共同生活を行っている。留学生の内訳はブルガリア2名、ルーマニア1名、ベトナム2名、中国1名である。

(施設設備の整備)

① エレベーター改修工事

1号館のエレベーターは設置後30年近く使用しているため老朽化が進み、メンテナンスも困難になったことから安全対策上、全面改修工事を行った。工事にあたり教育研究施設整備補助金を申請したが、文科省から取下げ依頼があったため、費用(1,490万円)は予定通り自己負担となった。

② 防犯カメラの設置

学内や近隣において、カルト教団の勧誘や痴漢などの不審者情報がたびたび報告され、安全で安心な環境づくりが急務となっていた。この環境づくりの一環として、昨年度守衛室を大学南側入口に建設したのに続き、今年度は大学構内への入退出を記録する防犯カメラを設置した(1,296万円)。なお、撮影した画像は個人のプライバシーを侵害することが無いよう十分取扱いには注意し、適正に設置・運用するべくガイドラインを制定した。

③ IRシステム機器の購入・設置

学内に散在するデータを集約・分析し、学修質保証や大学運営に利用するため、昨年度よりIRシステムの導入準備を進めてきた。2015年度は未来経営推進経費、私大等活性化設備整備補助金を受給して、IRシステム環境構築、システムの導入、担当職員の育成を実施(3,425万円うち補助額1,966万円)し、2016年度からの本格始動に向け準備を進めた。

④ 1号館 1101 教室の机・椅子入替え

1101 教室（チャペル）の机・椅子は設置後 30 年近く使用しているため老朽化が進み、私大等活性化設備整備補助金を利用し、入替を実施した（1,727 万円 うち補助額 1,157 万円）。

（進路の状況）

・2015 年度卒業生の進路状況は次のとおり。

就職者	190 名
就職未定者	3
その他	23
進学者	11
計	227 名

就職率 98.4% (190/193)

・就職者の業種別進路と主な企業名

※（ ）内は就職者数

業種	人数	主な企業
サービス業	73	新中央航空(1)、日本郵便(4)、JA 前橋市(2)、 JA 佐波伊勢崎(1)、JA 甘楽富岡(3)、JA 北群渋川(2)、 JA 邑楽館林(2)、JA 赤城橋(2)、JA 新田みどり(1)、 JA 碓氷安中(1)、JA はぐくみ(1)、JA 足利市(2)、 JA 佐渡(1)、利根保健生活協同組合(2)、 エイチ・アイ・エス(1)、東横イン(1)、レストランスワン(1)、 ホテル一井(1)、総合警備保障(1)、ディップ(1)、 モテキ(1)、トヨタ L&F 群馬(1)、日本運輸(1)、ミニミニ(1)、 横尾材木店(1)、宝屋(1)、大江戸温泉物語(1)、アトム(1) エスアールケイ(1)、コラボレーション(1)、 ワイズテーブルコーポレーション(1) ホルモン Kou(1)、NEXUS(3)、TBC グループ(1) ノエビア(1)、ラティエノ(1)、グラッドエデュケーション(1)、 ぐんま安全教育センター(1)、タナベ・コーポレーション(1)、 童夢館 竹の子(1)、斉藤クリニック耳鼻科(1)、 新前橋歯科医院(1)、棒桐会 はんなさわらび療育園(1)、 希望館(1)、シエステさとの花(1)、 三井住友ファイナンス&リース(1)、ウィングルム(1)、 エイジェック(1)、エントリー(1)、グンエイ(1)、 群桐産業(1)、シムックス(1)、フレックス(1)、 ヤマニ熱工業(2)、サンヴァーテックス(1)、 新潟総合警備保障(1)、企業名不明(3)
官公庁	7	安中市役所(1)、甘楽町役場(1)、群馬県警察本部(3) 吾妻広域消防本部(1)、自衛隊(1)
教職員	15	群馬県公立小学校(4)、群馬県公立中学校(2)

		埼玉県公立高等学校(1)、埼玉県公立小学校(1) 千葉県公立小学校(2)、東京都公立小学校(1) 新潟県公立小学校(1)、横浜市公立小学校(1)、 神奈川県小学校(1)、KTC 中央学院(1)
金融業	10	アイオー信用金庫(2)、桐生信用金庫(3) 群馬県信用組合(1)、ぐんまみらい信用組合(1) しののめ信用金庫(2)、野村証券(1)
建設業	2	ミタカ工房(1)、三ラーズ(1)
商社	2	岩瀬産業(1)、太田物産(1)
情報通信業	20	両毛システムズ(1)、リクルート北関東マーケティング(1) パリッシュ総合研究所(1)、クライム(1)、 システム・アルファ(2)、システムブレイン(1)、 高崎共同計算センター(1)、モテコ出版(1)、 ジーシーシー(1)、エンファクトリー(1)、ITX(1)、 FUKUMIMI(1)、アイエムエス(1)、エルテックス(1) スリーアイ(1)、日本デジタル研究所(1)、 ベネフィットジャパン(1)、スバルシステムサービス(1)、 藤田ソリューションパートナーズ(1)、
製造業	18	澤藤電気(1)、三益半導体工業(1)、古川製作所(1)、 日本電産サーボ(1)、しげる工業(2)、JA 高崎ハム(1)、 アキレス(1)、みどり化学(1)、来知(1)、浅野(1)、 ナカジマ(1)、日本デント(1)、プロダクト(1)、 群馬合金(1)、三幸機械(1)、タツミ(1)、水戸工業(1)、
流通・小売業	43	群馬トヨタ自動車(5)、GN ホールディングス(2)、 日産サテリオ群馬(1)、関東マツダ(2) 関東いすゞ自動車(1)、群馬クボタ(1)、 ハンユウオート(1)、ガリバーインターナショナル(1)、 ベイシア(1)、フレッセイ(2)、ベルク(1)、ヤオコー(2) クスリのアオキ(2)、クスリのマルエ(1) セントラルフーズ(1)、群馬県教科書販売(1) エービーシー・マート(1)、群馬鶏卵(1)、 イーグルリテイリング(1)、雄山(1)、アミング(1)、 エーコーブ関東(1)、栗原医療器械店(1)、ジラス(1) ジェイ・クエスト(1)、ジェムコ(1)、スタートトゥデイ(1) ダイヤモンドテレコム(1)、ドン・キホーテ(2) 高崎自動車販売(1)、日本テレメッセージ(1)、 日立コンシューマ・マーケティング(1) 富士ゼロックス群馬(1)
計	190 名	

高 校

(人事について)

退職、休職等

- ・2015年度中外国人教師1名退職 トレンティノ・キャスリーン

採用、復職、異動等

- ・校長の学園長へ職務替 大川
- ・副校長の校長への任用替 飽田
- ・専任教諭1名の非常勤講師への任用替 高橋
- ・専任講師1名の非常勤講師への任用替 増本
- ・専任講師1名の専任教諭への任用替 吉田
- ・外国人教師1名の年度途中採用 スタッキー・メーガン・メリッサ
- ・高校教諭1名の、専任講師1名の中学への異動 下田、瀧波
- ・中学教諭1名の高校への異動 宇野
- ・専任講師1名の採用 茂野
- ・非常勤講師2名の採用 添田 望月

・教 員

年度	専任教諭	専任講師	左の計	非常勤講師
2011	46	15	61	24
2012	45	15	60	20
2013	44	15	59	22
2014	45	17	62	25
2015	44	14	58	31

・職 員

年度	専任職員	パート職員	学寮職員	計
2011	6	※1	4	11
2012	7	0	4	11
2013	7	0	3	10
2014	7	0	3	10
2015	7	0	3	10

※ パート職員1名は、2012年度より振興費補助金算定上、中学本務で計上。

(生徒確保と入学の状況)

2014年度に比べ応募者が約40名程減少したが、定員の360名を超える375名の入学者を確保することができた。

入学概況（入学定員 360 名）

	普通科		英語科		計
	特進コース	進学コース	特進コース	進学コース	
定員	230 名		130 名		360 名
応募者	902 (48)		286 (40)		1,188 (88)
合格者	239 (3)	533 (45)	153 (18)	105 (22)	1,030 (88)
入学者	20 (3)	233 (45)	40 (18)	82 (22)	375 (88)

※ カッコ内は共愛中学出身者の内数。

（特別奨学生制度の充実）

すべての入試に特別奨学生制度が適用されることを周知し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活力のある学校づくりを目指した。

特別奨学生は定期的（学年末）に学業成績や部活動の様子など継続審査が行われ、年度の途中や年度末に資格を失う場合もある。

過去5年間の特別奨学生の入学実績は下記のとおりである。

	特別奨学生 S		特別奨学生 A		特別奨学生 B		特別奨学生 C		特別奨学生 D		計
	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	
2011 年度	0	—	6	12	4	—	7	13	0	—	42
2012 年度	0	—	8	4	4	—	9	7	4	—	36
2013 年度	0	—	6	9	2	—	7	8	0	—	32
2014 年度	2	—	4	12	1	—	8	10	2	—	39
2015 年度	—	—	7	13	3	—	14	9	7	—	53

（進路の状況）

昨年度と比較すると4年生大学への進学者が5ポイント増加した。旧帝大や私学の難関校 慶應義塾大学にも合格者を出すことができた。

今後も、国公立大学や難関私立大学への合格者数を増やすこと（出口）が、中高生徒の確保（入口）に繋がるために、より一層学習指導や進学指導に力を入れていきたい。

区分	人数	合格先 (国公立大学)
大学	227 名 (63%)	北海道大(2)、群馬大(3)、新潟大(1)、山梨大(1)、群馬健康科学大(1)、群馬県立女子大(4)、高崎経済大(4)、埼玉県立大(1)
短大	27(7%)	
専門学校	70(19%)	
留学予定	6	
就職	12	
浪人・その他	17	
計	359 名	

(施設・設備の充実)

① PC教室2 PC入替

本体のOSがXPであることによる更新で、教員・生徒用45台入替をし、授業で使用している。

② 無線LANケーブルの敷設

校内の無線LAN環境整備に向けて、まず高校棟に通信容量の多いLANのケーブルの敷設を行った。

③ 業者によるトイレ清掃

バザー収益金で業者によるトイレ清掃を高校棟2F男女、礼拝堂2F男女計4箇所行い大変綺麗になった。

④ 学食厨房のスチームコンベクションオーブンの入替え

老朽化が進み使用が難しくなった、学食厨房用のスチームコンベクションオーブンを入替えた。これにより提供できるメニューの数も増えた。

⑤ 防犯カメラの更新

落雷の被害により使用が出来なくなった校内の防犯カメラ設備を一新することが出来、よりクリアな画質で確認することができるようになった。

⑥ テーブル・椅子・ベンチの購入

高校棟4Fホールにテーブルと椅子、3Fホールにはベンチを卒業記念品として設置した。お昼や放課後生徒が多数利用している。

中 学

(人事について)

退職、休職等

- ・2014年度末専任講師2名の退職 奥田 黒崎
- ・2015年度中外国人教師1名退職 メインケン・ミシエル

採用、異動等

- ・高校専任講師1名の中学専任教諭への任用替 齊藤
- ・高校教諭1名、専任講師1名の中学への異動 下田 瀧波
- ・中学教諭1名の高校への異動 宇野
- ・外国人教師1名の年度途中採用 ムブンドゥ・エリザベス

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2011	7	6	1	14	8
2012	7	6	1	14	11
2013	9	4	1	14	9
2014	9	4	1	14	7
2015	9	4	1	14	10

(入学の状況)

2014 度と比較すると 40 名を越える出願者減となり、入学者も約 30 名減った。対象年齢人口激減期にある中学は今後、定員確保が課題となった。

入学概況（入学定員 100 名）

	第 1 回入試		第 2 回	第 3 回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	41	35	13	6	132
合格者	41	26	7	5	79
入学者	41	21	6	4	72

(進路の状況)

卒業者数 104 名中、共愛学園高校へ内部進学した生徒は 97 名、他校へ進学した生徒は 7 名である。

年 度	卒業者数	内部進 学者数	外部進学者数						計
			県内 国公立	県内 私立	県外 公立	県外 私立	海外 留学	その他	
2011	83	69	8	2	0	3	1	0	14
2012	87	77	6	0	1	1	2	0	10
2013	105	87	10	4	0	2	2	0	18
2014	94	87	3	3	0	0	0	1	7
2015	104	97	3	1	0	3	0	0	7

幼稚園

(教員数)

教諭 1 名と常勤講師 1 名の計 2 名が本人の希望で非常勤講師へ任用替え、常勤講師 2 名を新採用し、非常勤講師 2 名が退職したため、2014 年度と同様に常勤の教員は 6 名体制（園長含む）、非常勤の教員は 4 名体制となった。

(園児募集)

園児募集を強化するためホームページを中心に広報関係の強化を図った。

年度当初の入園児及び園児数は次のとおり。

	入園児	在園児
3 歳児	25 名	32 名
4 歳児	3	28
5 歳児	1	29
	29	89

※満 3 歳児を除く

(課外活動)

昨年度に引き続き課外活動を実施した。申込者等の概要は次のとおり。

	絵画造形 クラブ	サッカー・ 体操教室	児童英語 クラブ	くるみクラブ
申込者数	19名	59名	23名	約600名(延べ人数)
講師	本大学教員	本大学学生	本大学教員・学生	石田・高田・菊池
開催日数	4日	27日	9日	42日

※空手道教室は実施しなかった。

(施設・設備の充実)

2016年度から認定こども園へ移行するにあたり、幼稚園側の負担で幼稚園と保育園の園舎をつなぐ渡り廊下を設けた。

また、2014年度に引き続き、プール周り及び外回廊スノコの一部を、腐食することのない樹脂性スノコに入替えた。

木瀬保育園

(職員数)

年度	園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務員	計
2012	1	21	1	2	3	1	29
2013	1	24	1	3	3	1	33
2014	1	25	1	3	2	1	33
2015	1	26	1	3	2	1	34

(園児数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	15	18	22	25	25	25	130
実員	17	25	24	25	27	26	144

(施設設備の整備)

保育園舎1階ホールの床については、コンクリートに樹脂タイルを張った構造で、弾性に欠ける硬い床ホールとなっていたが、これを改善するためその上に木製の資材を張り、より弾力性の高い床へと改修した。

また、2016年度から認定こども園へ移行するにあたり、その備えとして調理室の改修を行い、このほか調理室冷蔵庫、乾燥機、保管庫を新規に取得した。

学童クラブ

(児童の確保)

2015 年度は開所して5年目にあたる。人材や施設など総合学園として共愛学園の特色を活かした保育活動を展開し、地域社会からも高い評価が得て児童は順調に確保されている。

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
児童数	17 名	25 名	33 名	37 名	39 名

(施設整備)

開所時の5年前に中古で取得した児童送迎用の公用車が老朽化してきたので、新年度に備え中古ではあるがホンダのステップワゴンと入替えた。